



World Food Programme

Programme Alimentaire Mondial

Programa Mundial de Alimentos

برنامج الأغذية العالمي

2017年2月24日

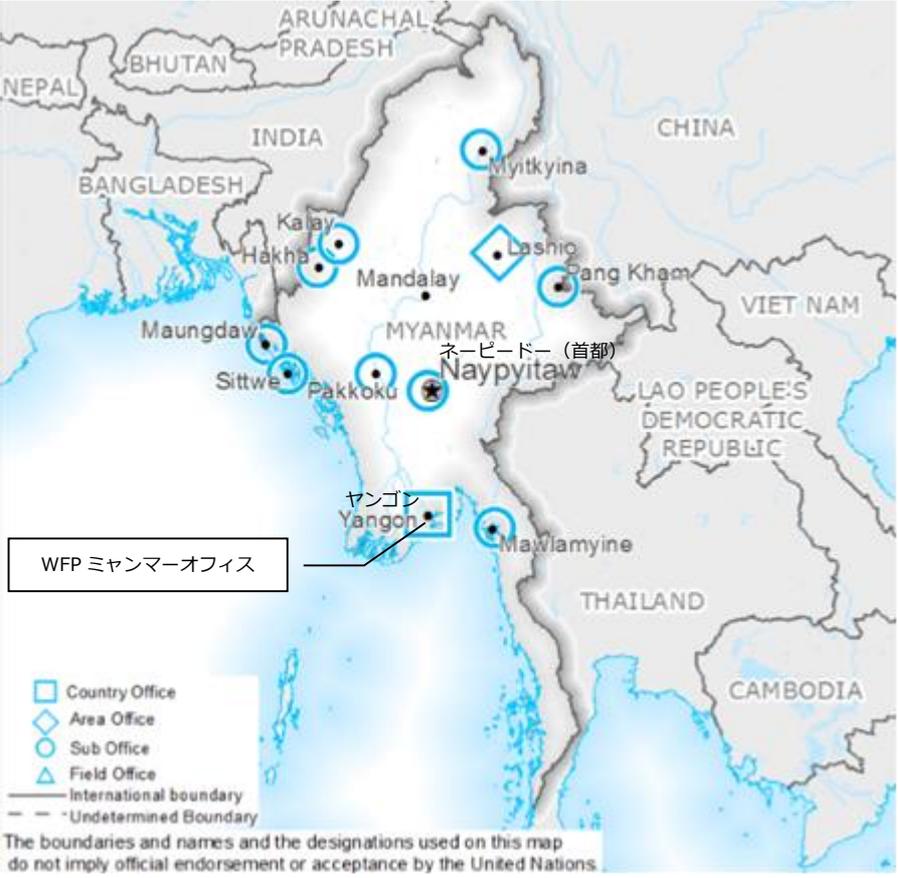
特定非営利活動法人 国連世界食糧計画 WFP 協会

ファミリーマート「夢の掛け橋募金」
2016年度 第2 四半期 活動報告書

夢の掛け橋募金概要

ご寄付額	20,332,097円 2016年度第2 四半期 (2016年6月～2016年8月) 677,737人日 (2016年支援予定対象者全員に対し、1.3日分の給食に相当)
	※ 前回 4,884,537円 2016年度第1 四半期 (2016年3月～2016年5月) 162,817人日 (2016年支援予定対象者約 1/3 人の1日分の給食に相当)
事業実施国	ミャンマー連邦共和国
事業名	学校給食プログラム
使途	未就学児と小学校の児童に 75g の栄養強化ビスケットを支給
プログラム期間	2013年1月～2017年12月

1. 事業実施国概要

国名	ミャンマー連邦共和国 (Republic of the Union of Myanmar)
地図 (WFP 各オフィス位置)	
面積	68 万平方キロメートル(日本の約 1.8 倍)
人口	5,141 万人(2014 年 9 月、ミャンマー入国管理・人口省発表)
民族	ビルマ族(約 70%)、その他多くの少数民族
公用語	ミャンマー語
宗教	仏教(90%)、キリスト教、回教等
主要産業	農業
一人当たり GDP	1,113 ドル(2013/14 年度, IMF 推計)
失業率	約 4.0%(2013/14 年度, IMF 推計)
人間開発指数	188 国中 148 位(2015 年、UNDP)

出典：外務省ホームページ、WFP ホームページ



2. 支援背景

経済状況

- ・ ミャンマーは東南アジアで2番目に大きな国だが、世界の中の最貧国にあげられており、1,300万人以上（人口の26%以上）が貧困基準（1日あたり1.9米ドル）以下の生活を送り、300万人が収入のほとんどを食費に費やさざるを得ない状況である。
- ・ 1948年イギリスからの独立以降、長期的な民族紛争やコミュニティ間の紛争などにより発展が遅れ、国民の多くが移住を強いられてきた。

食糧・栄養事情

- ・ 最低780万人(国の約15%)が栄養不足である。(遠隔地の一部が未調査のため、実際には更に多くの人数が栄養不足と推測できる。) 各家庭の近くに店舗や市場が無く、十分な栄養を摂れていないことも大きな要因である。
- ・ 5歳未満の35%が発育阻害(身長に対し低体重)であり、大変深刻な状況である。

教育状況

- ・ 最新の統計では、小学校の平均就学率は88%、75%の児童が最終学年の5年生まで就学している。しかし、卒業試験に合格しての卒業率は54%に留まっている。
- ・ 民族間紛争が激しいラカイン州での小学校の就学率は71%に留まっており、国内の格差も発生している。

政治、その他

- ・ 2015年11月の総選挙でアウン・サン・スー・チー氏率いる国民民主連盟（National League for Democracy）が圧倒的な勝利をおさめ、50年ぶりの民主政権が誕生した。
- ・ ミャンマーは自然災害に対し脆弱で、ミャンマー政府の緊急対応が不十分で社会経済発展の妨げとなっている。
- ・ また、一部地域での民族間紛争が続っており、情勢が不安定となっている地域がある。

3. WFPのミャンマーにおける援助計画（全体）

2015年、WFPは2013年に始まった計画を2017年末まで延長し、ミャンマー内で活動する国連チーム間での連携強化を行うこととした。現在の計画は、より公正な開発に貢献し、飢餓・食糧不足・栄養不良の削減、災害への対策、多方面における脆弱性を強化し、国家内の和解への支援を目指した。



援助計画における特定課題：持続可能な開発目標（SDGs）と飢餓ゼロへの挑戦（ゼロ・ハンガー・チャレンジ¹）との連携

- ① 自然災害等への備えと対応を担うミャンマー政府へのサポート
- ② 災害被災地を復興と再生することにより、一般家庭の食糧事情を改善、社会的弱者に対する社会経済への参加機会を創出
- ③ 栄養不良の子どもと妊婦、育児中の母親のサポート、HIV や結核患者と生活する人々へのサポート
- ④ 小学校への就学率と出席率の向上
- ⑤ 知識の共有や人材育成を通じた、食糧の不安定供給および栄養不良への対策の持続性を向上

援助計画必要経費総額 (2013年1月～2017年12月)	343,000,000 USD
受領した寄付金総額	207,000,000 USD (必要経費総額の60%)

4. 援助計画のための取り組み

WFPは主に以下の5項目について取り組んだ。

① Relief

WFPは、紛争避難民や自然災害被災者280,000人に対し、緊急食糧（Life-saving food）を供給。2015年から2016年9月までの、Ayeyarwaddy、Bago、Magway、Mandalay地域、Rakhine州の洪水被災者への食糧および資金援助は179,520人に至った。また、2014年以降、FAOと共に食糧安全保障セクター（FSS）を率い、民族間紛争や自然災害により被害にあった人々の食糧や現金支給に応じている。

② Nutrition

WFPは、国家保健制度と国家保護計画の連携を行い、140,000人の妊婦や育児中の母親、栄養不足の幼児に対し、特に栄養価に配慮した食料を提供した。

③ HIV/TB programme

HIVや結核患者には、免疫システムを高めるバランスが取れた食事が重要である。WFPは治療の効果を高めるため、23,000人のHIVおよび結核患者に対し、管理された食料を提供した。

④ Community Asset Creation

WFPは、コミュニティにインフラを敷設し、200,000人に現金または食料のどちらかを提供することによって、コミュニティ強化を行った。

¹ ゼロ・ハンガー・チャレンジ 飢餓をなくすことを目標に、世界中からの支持を集めようという取り組み <http://ja.wfp.org/hunger-jp/zerohungerpage>

⑤ School Feeding (学校給食)

- WFP および教育省は、国家社会保護戦略計画や国家教育戦略計画（2016年～2021年）を支持し、2015年から2016年にかけて、引き続き学校給食プログラムの国営化に向けて協働した。
- WFP は、2016年から2017年にかけて、50万人の子どもへの学校給食提供を目指している。さらに、2015年には畜産省や水産省、地方開発省と協力して、食糧安全保障と貧困評価調査を完了し、国家初の食糧安全保障に関する図解書を編纂し、国家食糧安全保障と貧困縮小方針および戦略の進歩に貢献した。
- WFP は、国内9つの資源センターを設立する際にミャンマー政府を支援し、持続可能な食糧安全保障モニタリングの向上に貢献した。



食料支援が必要な人の人数：543,475人
 WFPが支援した人の人数：439,942人
 (男女比：女性：51% 男性：49%)
 2017年1月



カチン州にある国内避難民キャンプ



キャンプ内でも母子栄養支援が行われている



緊急食糧（米、日本からの支援による）を受け取る、ラカイン州で紛争に巻き込まれた女性



5. 学校給食プログラム

事業内容

未就学児と小学校の児童へ、毎日 75g の栄養強化ビスケットを支給
ステークホルダー：ミャンマー政府、ユニセフ、NGO 等

事業目標

- ・就学率、出席率の向上、及び、中退率の減少
- ・短期的な飢餓の解消、及び微量栄養素不足の解消
- ・プロジェクト対象人数：500,000 人

2017 年の支援

- ・支援者数：2017 年 1 月時点で 192,000 人程度（目標達成率 38.4%）

※2016 年 11 月 233,000 人程度（46.7%）、2016 年 12 月 232,000 人程度（46.5%）



今後の展望

- ・資金不足の早急な解消が必要である。このまま資金が不足すると学校給食の停止などの措置を取らざるを得ない。



- ・北部のラカイン州のように、民族間紛争が続いている地域もあり、セキュリティ状況によっては一部地域において学校給食プログラムの展開が困難になる可能性もある。
- ・避難民が増加するなどして、緊急性の高い人道支援のニーズが高まり、学校給食支援に割り当てることができる資金が減る可能性もあり得る。
- ・いずれ、国連 WFP の支援無しでもミャンマー政府が学校給食を提供できるように、ニーズ調査、モニタリング活動など含め、政府の能力を強化させていく支援を行う。